



第二種
尋常小學書方手本
第五六年用乙上甲種

K130.721
2.1
5.6乙上a

K130.721

2.1

5.6乙上a

第二種

第五六學年用乙上甲種

尋常小學書方手本

文部省

日出ヅル處ノ天
子書ヲ日没スル

處ノ天子ニ致ス
恙無キカ。

神社佛閣拜殿。

第三卷 乙上甲

五重塔手水鉢。

第三卷 乙上甲

人は心も知らずふる里は

花ぞ昔の香にほひける。

五

来て見ればこも櫻のみねつき

吉野初瀬の花の中やど。

六

第二尋六乙上甲

第二尋六乙上甲

御手紙拜見仕傳來る二十日講話會に
申招き下され有り難く存じ傳専門家の
講話を承る好機會と存じ傳へども

第尋六乙上甲

當日はやむを得ざる用事これ有り殘
念ながら参上致し難く傳若取り
おへず申返事申し上傳敬具

第尋六乙上甲

我が聯合艦隊が克ク勝ヲ制シテ前記ノ如キ
奇績ヲ收メ得タルモノハ一ニ天皇陛下ノ御稜
威ノ致ス所ニシテ固ヨリ人爲ノ能クスベキニ
アラス。殊ニ我が軍ノ損失死傷ノ僅少ナ

第百卷乙上甲

リシハ歴代神靈ノ加護ニ依ルモノト信仰
スルノ外ナク嚮ニ敵ニ對シ勇進敢戦シタル
麾下將卒モ皆此ノ成果ヲ見タルニ及ンテ
唯々感激ノ極言ヲ所ヲ知ラサルモノノ如シ。

第百卷乙上甲

手數都合取扱。

十一

第尋六乙上甲

保存交換輕便。

十二

第尋六乙上甲

吹く風をなこそ
の瀬と思へども
路もせにちる山櫻かな。

藤原公成上甲

藤原公成上甲

年を經し絲のみだれの苦しさに
衣のたてはほころびにけり。

頭。胸。腹。心。臟。肺。

十五

第 五 卷 乙 上 甲

腸。胃。筋。肉。關。節。

十六

第 五 卷 乙 上 甲

動物體色周圍。

十七

第壹卷乙上甲
第壹卷乙上甲

保護警戒武器。

十八

裾野。樅檜。頂上。

十九

第一卷 乙上甲

噴火口。銀明水。

二十

燈臺本暗シ。
長者ノ萬燈ヨリモ貧女ノ燈。

十一

第三卷乙上甲
第九卷乙上甲

旅ハ道連世ハ情。
思フ念力岩ヲモ通ス。

十二

濱邊沖合地引網。

鰆魚。鯖魚。鰹魚。鱸魚。鯛魚。解虫。

この町も村も老若男女ひたすらに
大君を思ひ奉る赤心より祈らぬ神佛も
無く立てぬ願も無し。まして三重橋外の

徳寺本乙上甲
徳寺本乙上甲

廣場には土にひれふし砂にぬかつきて夜と
なく晝となく祈り奉るもの幾千といふ
數を知らずゆしき有様たとへんに物をし。

拜啓老父事本年は八十歳に相成り候に
つき来る九月二日の誕生日に御心安まき方々
法招待いたし心ばかりの祝意を表し

度と存じ候間同日正午までに御出で
下され候はば大幸の至に存じ候先は
書案内まで此の如くに御座候

梁棟。桁。床。敷。居。

鴨居。唐紙障子。

耕地。整。理。養。蠶。養。雞。

三十一

第...卷...上甲

著。實。熱。心。去。華。就。實。

三十二

本殿の横手に一段ばかりの平地あり。
こゝは我が村の公園ともいふべく御祭の
日宮角力の行はるゝも此處なり村

芝居のもよほさるゝも此處なり。豊年
の喜に人心の勇み立つ秋の空宮太
鼓のひびきは我等の物ををどらしむ。

X130, 7 21-2.1
-56 259

大大大大
正正正正
五五五五
年年年年
四三三三
月月月月
廿十七
七八七
日日日日
印刷發行
印刷發行
印刷發行



著作權所有

大正五年三月廿九日
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新
右衛門町十六番地

第三種尋常小學書
第五六年用乙上甲種

定價金參錢

文部
高部
秩父省

發行所
東京市小石川區久堅町百八番地
日本書籍株式會社

代表者
東京市京橋區新榮町五丁目七番地
大倉田保五郎

印刷所
東京市京橋區新榮町五丁目七番地
大倉田保五郎
印刷所

株式會社
國定教科書共同販賣所

